

社会技術研究開発事業  
令和6年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」  
「 孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化  
による戦略的プレイスメイキング 」

内平 隆之  
兵庫県立大学 環境人間学部 教授

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2-1. 研究開発目標 .....	2
2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン .....	2
2-3. ロジックモデル .....	3
2-4. 実施内容・結果 .....	4
2-5. 会議等の活動 .....	16
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	18
4. 研究開発実施体制 .....	19
5. 研究開発実施者 .....	20
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	21
6-1. シンポジウム等 .....	21
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	21
6-3. 論文発表 .....	22
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	22
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	22
6-6. 知財出願 .....	23

## 1. 研究開発プロジェクト名

孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2-1. 研究開発目標

本研究開発では、場所からコミュニティへ、つながりを感じる助けとなるプレイスメイキングの方法を公民学連携で共創し、近隣社会環境の多様性を活かして空間的に処方することで、孤立・孤独を抱えがちな性格の人たちが公共空間に立ち寄りやすく、ハイリスク者も誘いやすい社会の実現を目指す。本研究開発のプレイスメイキングとは、誰もがアクセスできる公共の場で行われる、場所との通いを構築するための近隣社会環境への介入方法を指す（以降、PMと略）。

研究開発要素1「社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出」として、孤立・孤独に陥りやすい性格傾向および空間的・社会的・情動的の選好を明らかにし社会的孤立・孤独メカニズムを理解する。これにより、性格傾向に配慮した立ち寄りやすい公共空間づくりを支える社会的仕組みを描出し、孤立・孤独の予防につなげる。

研究開発要素2「人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法(指標等)の開発」として、まず、孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルを開発する(目標1)。次に、性格傾向に起因する孤立・孤独に陥りやすい複合傾向を明らかにする(目標2)。最後に、各予防モデルに基づき近隣社会環境の多様性と予防格差を可視化する(目標3)。

研究開発要素3「社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み」として、まず、孤立・孤独予防格差解消のための空間的・社会的・情動的の選好に基づき、散策式・移動式・情報支援式の3つのPMモデルを開発する(目標4)。次に、空間的・社会的・情動的の選好に配慮した場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMの方法をエリアマネジメント組織と共創し検証する(目標5)。最後に、孤立・孤独予防に取り組む共助システムを回復させる伴走支援の仕組みを構築する(目標6)。

### 2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン

- Q1.PMは、孤立・孤独予防として、どのような性格傾向の人に有効か？
- Q2.近隣社会環境の多様性を活かし、どこでPMを行うべきか？
- Q3.孤立・孤独予防格差解消のために、どのような空間的・社会的・情動的の選好に合理的に配慮すべきか？
- Q4.場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMは、どのような社会的ネットワークを構築して、だれと実施すべきか？
- Q5.まちの中に、誰もが気軽に訪れることができ、他者とつながれる「場所」をつくるPMを通じて、誰もが健康に過ごせるまちの仕組みは、どのように実現できるか？

### 2-3. ロジックモデル

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)  
 「孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング (内平P J)」 ロジックモデル

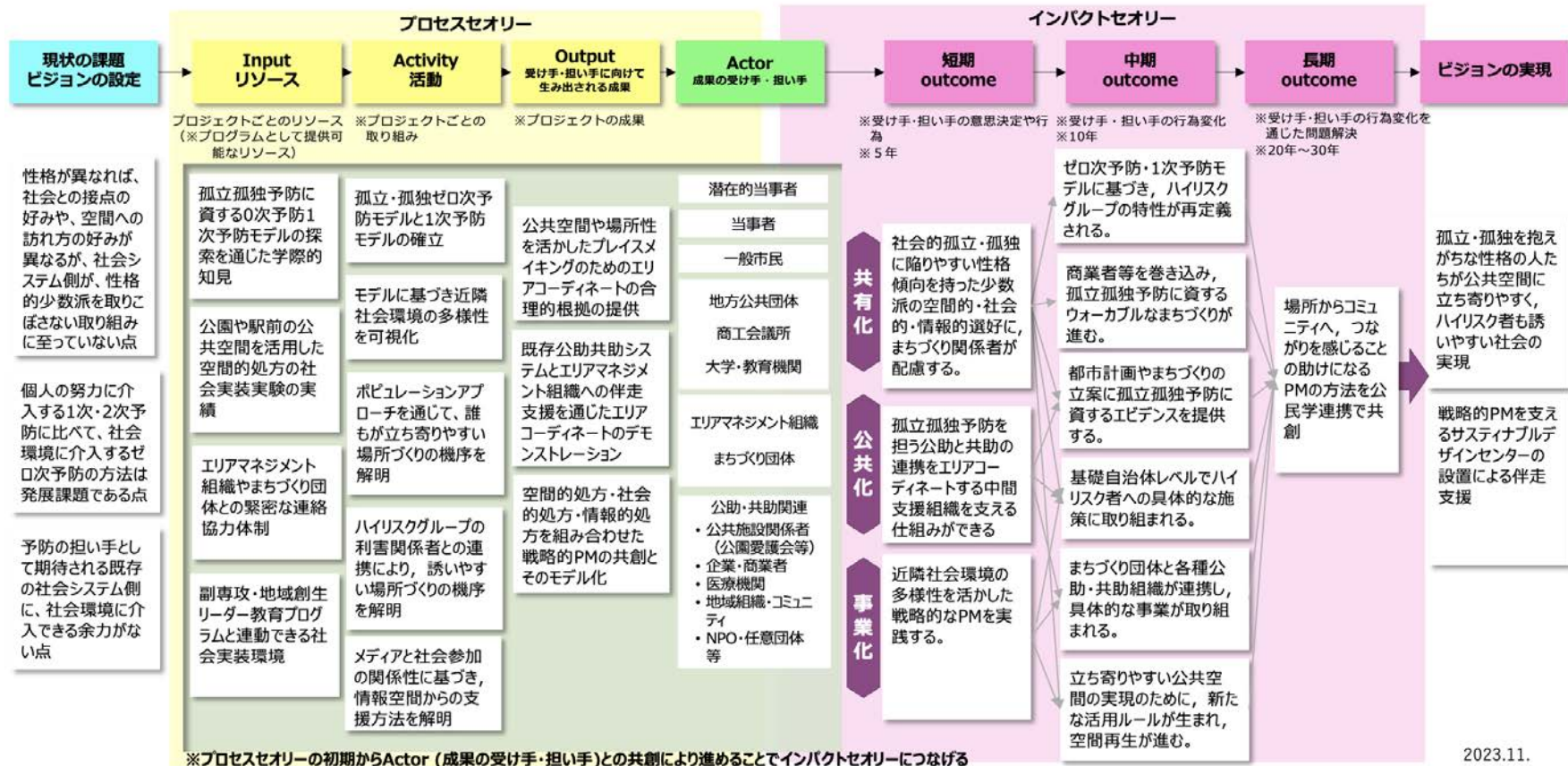


図1 本プロジェクトのロジックモデル

## 2-4. 実施内容・結果

### (1) スケジュール

- マイルストーン① SDC設立検討会の設立による共創体制の確立  
(SDC=サステナブルデザインセンターの略)
- マイルストーン② 孤立・孤独ゼロ次予防・1次予防モデルの開発
- マイルストーン③ 近隣環境多様性に基づくリスク可視化モデル開発
- マイルストーン④ 近隣社会環境の多様性を活かした戦略的PMの社会実装

表1 スケジュールとマイルストーン

実施項目 (R7計画書変更版)	初年度 (2023年10月 ~2024年3月)	2年度 (2024年4月 ~2025年3月)	3年度 (2025年4月 ~2026年3月)	最終年度 (2026年4月 ~2027年3月)
<b>A 共創体制の確立</b>	連携体制の構築			
中項目A1 SDCの開発と展開 SDC共創グループ	マイルストーン①			
中項目A2 人材育成の実施 SDC共創グループ	つながり思考連続講座			
中項目A3 成果の公表 SDC共創グループ	試作モデル開発			
	SDCの機能開発とエリアマネジメントの展開			
	モデル改善			
<b>B 予防モデルの開発と近隣社会環境の多様性の可視化</b>	選好別モデル開発			
中項目B1 予防モデルの開発 SDC共創グループ	マイルストーン②			
中項目B2 多様性の可視化 SDC共創グループ	GISでの多様性の分析			
	人流データによる可視化の試行と検証			
	モデル展開			
<b>C 戦略的PMのモデル開発</b>	PMモデルの開発と検証			
中項目C1 PMモデルの開発 空間的選好研究グループ	PMモデルの開発と検証			
社会的選好研究グループ	PMモデルの開発と検証			
情動的選好研究グループ	PMモデルの開発と検証			
中項目C2 戦略的PMと検証 SDC共創グループ	公共空間の現状PM効果の検証			
	マイルストーン④			
	戦略的PMのアクションリサーチ			

### (2) 各実施内容

#### ①社会的孤立・孤独メカニズム理解と社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出 当該年度の到達点A

住み続けられるサステナブルな姫路のデザインを考える連絡準備会の運営

実施項目A-1 連携体制を活かした公共空間活用方法の検討

- ・ 小公園, 美術館, 駅前広場を起点に公公民連携での取組を検討するワークショップを実施 (担当: 内平・岸本・ひとネットワークひめじ等)。

- ・ 美術館については、児童養護施設をハイリスク者として絞り込み、学芸員、美術館友の会、地域ボランティア団体等の関係者とのグループインタビューを実施。児童養護施設を招待するための美術館起点での予備実験を検討（担当：内平・佐々木・姫路市美術館友の会）。
- ・ 小公園・駅前広場については、公園緑地課・ボランティアセンターなどの公学民連携での取組を検討する意見交換会（ワークショップ）を実施（担当：内平・岸本・姫路市公園緑地課等）。
- ・ 社会包摂的管理を通じた PM の新たな担い手として、「木かげ友の会」という社会ネットワークづくりを検討（担当：内平・岸本・NPO 法人スローソサエティ協会）。

#### 実施項目A-2 連携体制を活かした人材育成の試行

- ・ 2023 年度に実施した姫路商工会議所まちづくり委員会と、申請書にある「マチヅカイ大学（仮）」として、「つながり思考でサステナブルな姫路・播磨をデザインする連続講座（以降、つながり思考連続講座）」のテーマで予備実験講座を 3 回実施（参加者 78 名）。行政関係者や商業者と周辺エリアの担い手とのネットワーキングを試行（担当：内平・姫路商工会議所まちづくり委員会・（株）イーズ・（株）アンド）。
- ・ 受講生の関心と改善要望に対応するために、システム思考に関するフォローアップセミナーを 4 回実施。次年度以降の社会実装の担い手の発掘と共通知識・経験を通じてのエリア連携を模索（担当：内平・姫路商工会議所まちづくり委員会・（株）イーズ・（株）アンド）。
- ・ メディアプラットフォーム note+において、PM の取り組み発信（担当：井関・内平）。

#### 実施項目A-3 フォーラム等の実施

- ・ 2025 年 3 月 4 日に、SDC 共創グループの人材育成の試行を発信するために、姫路商工会議所において、成果報告交流会を実施（担当：内平・姫路商工会議所まちづくり委員会・（株）イーズ・（株）アンド）。
- ・ 2025 年 3 月 8 日に、社会的選好研究グループの成果報告として、山口大学において、二層の居場所づくりの研究成果に基づき、ハイリスク者を包摂する防災福祉の PM を探索する公開研究会を実施（担当：牛尾・網木・和田・内平・井関）。
- ・ 2023 年度の研究成果を海外に公表するために査読付き翻訳論文を投稿し 2025 年 4 月公開予定（担当：内平・中畠・安枝・伊藤）。

### ②人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法（指標等）の開発

#### 当該年度の到達点B

#### 予防モデルの発展および近隣社会環境を分析するための基盤DBの作成

#### 実施項目B-1 孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルの開発

- ・ 2023 年度に収集した全国エリア別人口按分 1 万人 WEB アンケートの結果に基づき、立ち寄り行動の認知に着目した孤立・孤独 1 次予防モデルを開発。日本建築学会の査読付き論文として 2025 年 4 月公開予定（担当：内平・中畠・安枝・伊藤）。
- ・ 孤立・孤独予防モデルごとの認知と実際の立ち寄り行動を比較するための人流データ付き WEB アンケートを 2025 年 3 月に全国人口按分 3,000 人規模で実施（担当：内平・岸本・中畠・田中ほか）。

## 実施項目B-2 近隣社会環境の多様性を可視化するためのGISによる基盤DBの作成

- ・ 当初は無作為抽出アンケートを姫路市対象エリアで実施予定であったが、人流データ付きアンケートが実施可能となったため、上記の全国 3,000 人アンケートと同じ時期に、姫路市の居住者を対象に人口按分 1,000 人規模での同様のアンケートを 2025 年 3 月に実施（担当：内平・岸本・中畷・田中ほか）。
- ・ 地区データについては、一般化を視野に合成人口データを取得し、ハイリスク者となる災害時在宅避難の要因分析研究と孤立孤独の要因を関連させて分析ができる基盤 DB を整備（担当：浦川・田中・岸本・内平）。

## ③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み

### 当該年度の到達点C 戦略的PMのモデル開発

#### 実施項目C-1 空間的・社会的・情動的選好に基づくPMモデルの事例研究

- ・ 空間的選好グループは、空間的設計の見直しに関する知見を得るために、モデル地区における街区公園の空間特性をモデル化し、成果を日本造園学会で発表（担当：安枝）。
- ・ 社会的選好グループは、NPO 活動を調査し、高齢化したニュータウンにおける「二層の居場所づくり」の有効性について考察。その成果を査読付き論文として日本都市学会で公表（担当：和田）。
- ・ 高齢者のまちの居場所である沖縄の共同売店の経営課題と居場所機能を調査し、その成果を林業経済学会で発表（担当：前田）。
- ・ 防災福祉コミュニティの先進事例の現地調査を実施（担当：牛尾）。
- ・ 情動的選好グループは、全国 3,000 人を対象に WEB アンケート調査により、異なる立ち寄り規範を提示するランダム化比較試験を実施。地域での孤立孤独予防の取り組みへの参加意欲を高める情動的処方を探求し、日本建築学会の査読付き論文として 2025 年 4 月公開予定（担当：内平・中畷・中桐）。
- ・ VR コンテンツを提示することで場所への立ち寄り意欲が変わるかについてランダム化比較試験を行い、成果を学術紀要としてとりまとめ公表（担当：中桐・内平）。
- ・ まちの広報の実験として、昔の写真を展示した PM の実装実験の結果を日本広報学会にて発表（担当：井関）。

#### 実施項目C-2 公共空間における個別PMへの介入実験の開発と試行

- ・ 公共空間にハイリスク者が立ち寄っているかを確認するために、小公園や美術館等の PM の予備実験を実施。美術館については、12 月に児童養護施設を招待したプログラムを実施（内平・佐々木・姫路市美術館友の会ほか）。小公園については、3 月に、モデル小公園づくりの一環として、「木かげまつり」を実施し、先述した新たな担い手となる「木かげ友の会」という新しい社会ネットワークに、「猫の手」体験を通じて参画するかどうかを検証（内平・岸本・スローソサエティ協会）。
- ・ 兵庫県立大学副専攻である地域創生リーダー教育プログラム（略称 RREP）に連動した PM の試行として、マルシェや駅前広場でのサービスラーニングや、学生立案による公園緑地での防災鍋のイベントや、美術館起点での親子向けの取組などを社会実装した（佐々木・岸本・山本・内平）。

(3) 成果

**①社会的孤立・孤独メカニズム理解と社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出**

マイルストーン①「SDC設立検討会の設立による共創体制の確立」の成果として、2023年度に構築した共創体制を活かし、2024年度はSDCの機能開発として人材育成連続講座を試行した。姫路商工会議所都市まちづくり委員会、(株)イーズ、(株)アンドと連携体制を確立し、システム思考(つながり思考)により、商業者を含めて、複雑なエリアマネジメントの課題の読み解きと、新たな社会像を探究する連続講座を3回試行し、受講生78名から講座の改善点をアンケートで収集。この結果を踏まえて、メンタルモデル変容や認知的多様性の重要性についての学習を強化したフォローアップセミナーを4回実施し、38名が継続的に参加した。この結果に基づき、2025年度に実施する5回連続講座のプロトタイプを確定した。

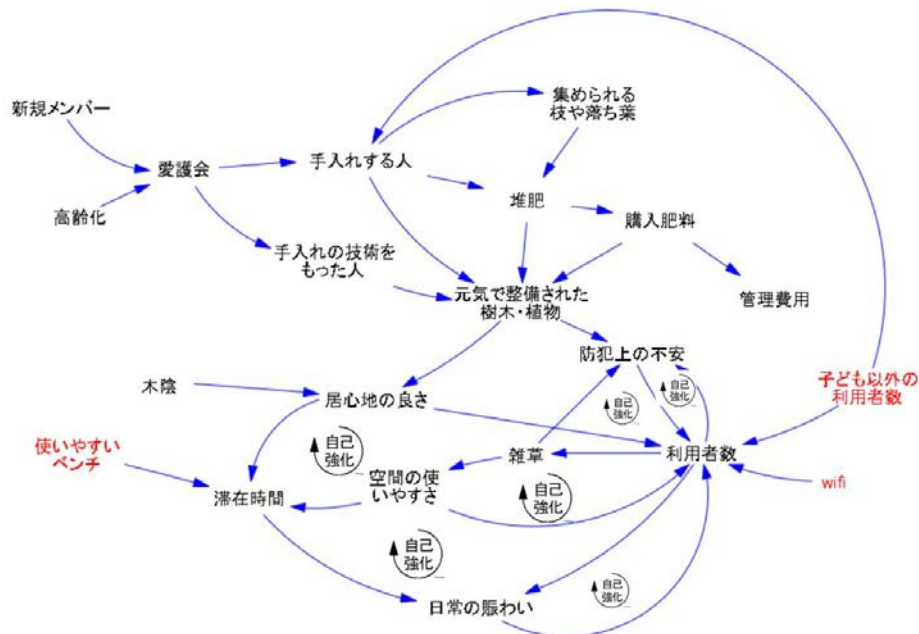


図2 連続講座の中で描出した課題ループ図の一例 (テーマ:モデル小公園づくり)

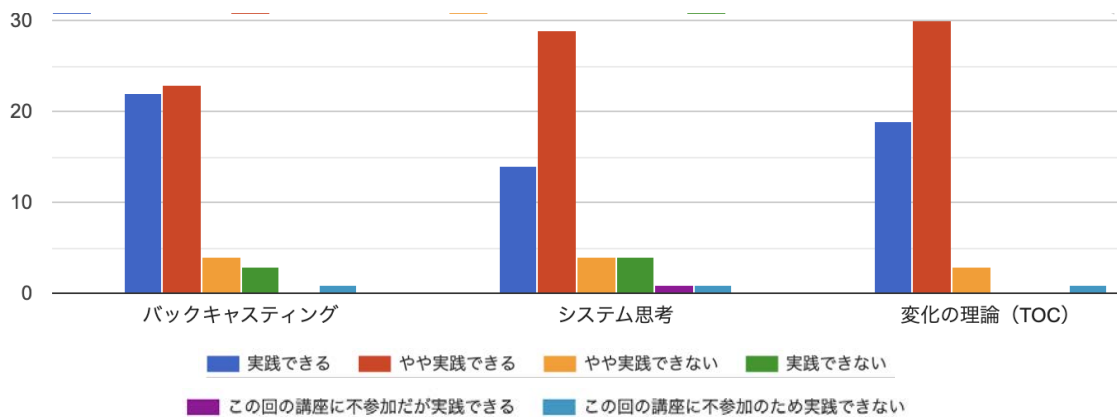


図3 つながり思考連続講座受講生の受講後アンケートの結果

## ②人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法(指標等)の開発

### B1 予防モデルの開発

アクセスが制限され、立ち寄ることが困難な場合、どのような「基本的資源」が、孤立や孤独を引き起こすのかは明らかではない。そのため2024年度の目標であるマイルストーン②「孤立・孤独ゼロ次予防・1次予防モデルの開発」として、孤立感や孤独感を感じていない人の立ち寄り行動の認知を分析し、「基本的資源」とは何かを空間的に説明すること目的に、モデル開発を実施した。具体的には、2023年度に収集した全国人口按分1万人アンケートの結果を分析し、公共空間等の空間利用認知を変数として加えた、孤立・孤独複合4類型に基づく予防モデルを開発した。誰でも立ち寄れるという観点からは、非孤立・非孤独型では、公共空間については公園や学校の利用頻度が高く、それ以外については、近所の居酒屋やカフェなどの半公共空間の利用が、ソロ活動も含めた立ち寄りの場の自由度を確保していると考察した。本研究は、利用頻度等の「行動認知」を探索した段階にあり、「施設立地の影響」と「立ち寄り行動の実態」が及ぼす、孤立・孤独への影響を明らかにする発展研究が今後必要である。さらに、ソロ活動でも立ち寄りやすい場所はどのようなものかは今後の発展的研究課題となった。

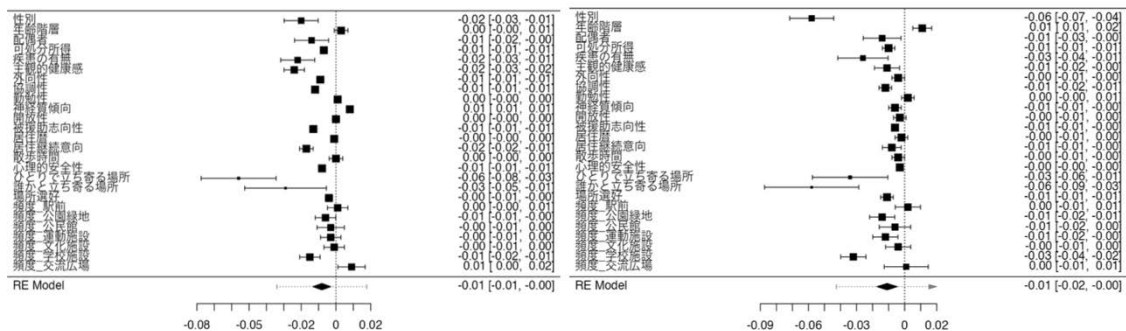


Fig.1 孤立・孤独型のMEMのフォレストプロット  
(孤立・孤独3次予防モデル)

Fig.3 孤立・非孤独型のMEMのフォレストプロット  
(孤立2次予防モデル)

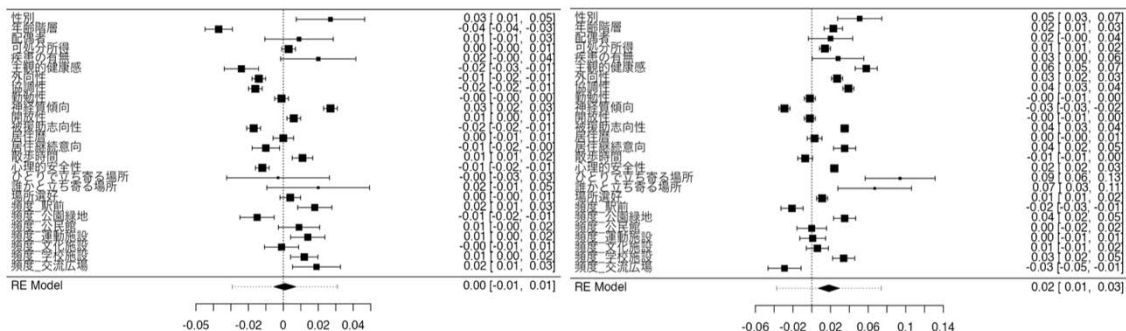


Fig.2 非孤立・孤独型のMEMのフォレストプロット  
(孤独2次予防モデル)

Fig.4 非孤立・非孤独型のMEMのフォレストプロット  
(孤立・孤独1次予防モデル)

#### 図4 空間利用認知を変数として加えた孤立・孤独複合類型別予防モデル

出典：内平隆之, 中島一憲, 安枝英俊, 伊藤克広「孤立・孤独予防に資する空間的処方のある方:全国エリア別人口按分1万人WEBアンケートによる立ち寄り行動の認知に着目した孤立・孤独1次予防モデル開発」日本建築学会計画系論文集 90(830) 737-748, 2025年4月, <https://doi.org/10.3130/aija.90.737>

## B2 多様性の可視化に向けた基盤DBの作成

2025年度のマイルストーン「近隣環境多様性に基づくリスク可視化モデル開発」に向けた準備として、以下を実施した。先述したように現在開発している予防モデルは、空間利用認知変数を含めた予防モデルにとどまっている。「施設立地の影響」と「立ち寄り行動の実態」が及ぼす孤立・孤独への影響を明らかにする方法を探索した結果、ジオテクノロジー株式会社の協力を得て、2025年2月より既存商用アプリを活用した人流データ付きアンケートを実施し、全国人口按分で3,186ユーザー、モデル地区を含めた姫路市で1,447ユーザーのデータを取得できた。これにより、匿名化処理後の人流データという限界はあるものの、孤立・孤独状況別に「施設立地の影響」と「立ち寄り行動の実態」の分析が可能となった。

	アウトプット	計測方法	調査方法	分析可能性	データ形態	計測方法	サンプル数	時間単位	空間単位
人	定点：集積・通過	目視 画像 センサー	通行量調査・乗降客数・ 来店者数 等	低頻度 高サンプル 狭域	個人の測位ポイント	GNSS (アプリ)	小 (1%ほど)	1分～	位置特定
	移動：OD・集積	アンケート 画像 センサー	PT調査・国勢調査 交通センサス 等	低頻・低サ・広域	個人の測位ポイント	GNSS (アプリ)	小	1分～	位置特定
	移動：OD・集積	画像 センサー	屋内流動 等	高頻・高サ・狭域	滞在移動OD等	GNSS (アプリ)	小 全数推定	1時間～	50m～
人が携帯・利用するもの	定点：集積・通過	GNSS・基地局・Wifi	通信キャリア系位置情報データ スマホアプリ系位置情報データ wifiアクセス・チェックイン	高頻・高サ・広域 高頻・低サ・広域 高頻・低サ・狭域	KDDI ロケーションデータ	GNSS (アプリ)	小 全数推定	1時間～	125m～
	移動：OD・集積	目視 センサー	交通量調査 等	低頻・高サ・狭域	滞在移動OD等	GNSS (アプリ)	小 全数推定	1時間～	50m～
	定点：集積・通過	目視 センサー	ETC・VICS・断面交通量 等	高頻・高サ・狭域	滞在移動OD等	GNSS (アプリ)	小 全数推定	1時間～	50m～
	移動：OD・集積	GNSS・基地局・wifi	カーナビ 等	高頻・高サ・広域	ドコモ モバイル空間統計	基地局	高 全数推定	1時間～	250m～
	移動：OD・集積	GNSS・基地局・wifi	バスナビ 等	高頻・高サ・広域					

図5 位置情報ビッグデータのインベントリと各データの分析の予備検討

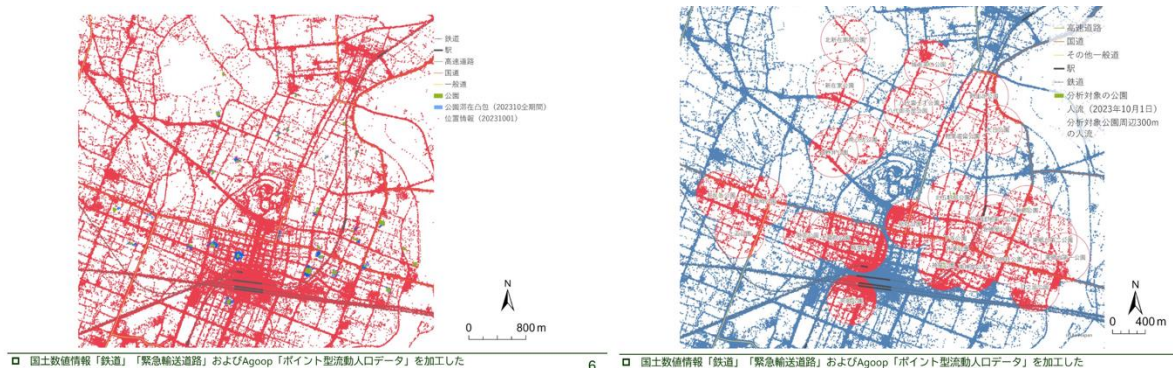


図6 モデル地区の公園の滞在状況および公園周辺における通過状況の分析の予備検討

## ③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み

### C1 PMモデルの事例研究

空間的選好研究グループの成果としては、モデル地区（姫路市中部第一地区）における街区公園の空間特性を分析し、日本造園学会において学会発表を行った。さらに、これまで、最も身近にあり、公共空間として最も数が多い公共空間であることが、公園に着目した理由であったが、全国人口按分1万人アンケートの結果、開発した1次予防モデルにおいても、公共空間の利用頻度認知として、非孤立・非孤独型では、公園の利用頻度が公共空間の中でも最も高い傾向にあることが確認できた。



図7 モデル地区にある公園の立ち寄りやすさの分析例

出典：藤近愛・安枝英俊「姫路市中部第一地区における街区公園の空間特性に関する研究」

2024年度日本造園学会関西支部大会，2024年10月

社会的選好研究グループの成果としては、3月8日に山口大学において、二層の居場所づくりの研究成果に基づき、ハイリスク者を包摂する防災福祉のPMを探索する公開研究会を実施した。具体的には、ニュータウンにおいて生活上のサービスを提供するNPOが実はゆるやかなつながり（一層目の居場所）を創出しつつあり、それが本格的な支援（二層目の居場所）の土台になっていく可能性があることを報告し、二層目の居場所づくりを担う保健・看護や地域づくりに従事する実践者と意見交換を行い、その成果を記事サイトで公表した（[https://note.com/pm\\_himeji/n/n808f39caab62](https://note.com/pm_himeji/n/n808f39caab62)）。



写真 NPOコミュニティかりばの取り組み事例（フリマボックス，フリーマーケット，セタバアガーデン）

情動的選好研究グループの成果としては、地域での取り組み参加意欲を高める情動的処方を探るために、立ち寄り規範をランダム化提示したWEB調査 (n=3,021)を実施した。その結果、1次予防では、規範の提示の違いは参加意欲に影響を及ぼさないが、2次予防、3次予防では規範の提示は逆効果 (負のアンカー効果) となることが示された。

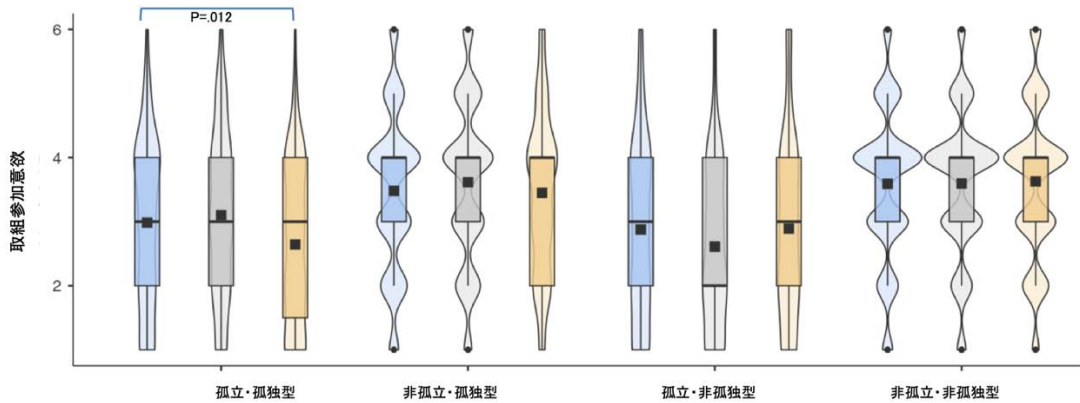


図8 孤立・孤独類型別取り組み参加意欲のスコア比較

凡例) A群(コントロール群)は青色, B群(静的規範)は灰色, C群(動的規範)は橙色, ■(黒四角)は平均値, 太線は中央値  
 有意差は多重比較でありDSCF法で検定した。

出典: 内平隆之, 中嶋一憲, 中桐齊之「孤立・孤独1次予防に資する地域での取り組み参加意欲を高める情動的処方の探索: 参加規範をランダム化提示した場合のWEBアンケート回答の違いに着目して」, 日本建築学会計画系論文集 90(830) 749-755 2025年4月, <https://doi.org/10.3130/aija.90.749>

## C2 介入実験の開発と試行

マイルストーン④「近隣社会環境の多様性を活かした戦略的PMの社会実装」の予備実験として、2024年度は以下を実施した。

1次予防モデルの開発研究の中で、相対的に孤立・孤独傾向にある性格傾向として、被援助志向性が低いことが示された (支援や支援を求めることに心理的抵抗感が高い)。

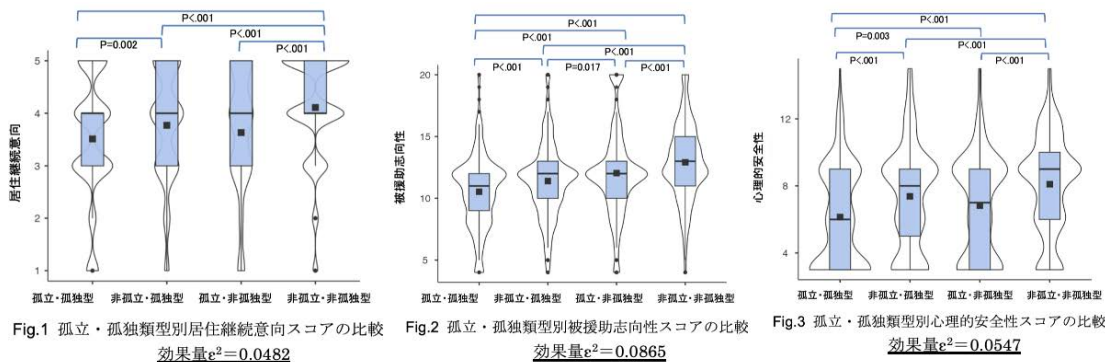


Fig.1 孤立・孤独類型別居住継続意向スコアの比較  
 効果量 $e^2=0.0482$

Fig.2 孤立・孤独類型別被援助志向性スコアの比較  
 効果量 $e^2=0.0865$

Fig.3 孤立・孤独類型別心理的安全性スコアの比較  
 効果量 $e^2=0.0547$

図9 孤立・孤独類型別変数比較 (居住継続意向・被援助志向性・心理的安全性) と各変数の効果量

出典: 内平隆之, 中嶋一憲, 中桐齊之「孤立・孤独1次予防に資する地域での取り組み参加意欲を高める情動的処方の探索: 参加規範をランダム化提示した場合のWEBアンケート回答の違いに着目して」, 日本建築学会計画系論文集 90(830) 749-755 2025年4月, <https://doi.org/10.3130/aija.90.749>

そのため、孤立・孤独予防に資するPMの予備実験として、この性格傾向に配慮するために、支援者と被支援者の主客の関係を緩和するPMに取り組んだ。具体的には以下の3つである。

2023年度に引き続き、2024年9月23日に青空市である「ヒメジくるくる市」を改修予定の空きビルの駐車場を借りて実施した。この青空市は、生活の一部として、買い物のついでに誰でも、ひとりでも立ち寄ることができる特徴があり、先行研究においても孤立や孤独を防ぐ訪問効果があることが示されてきた。今回の「くるくる市」の予備実験では、単なる買い物の場にとどまらず、持続可能な社会をつくる取組にも「くるくる」と参加できるよう配慮したPMを試行した。これにより、店主と来場者も立場関係なく、「くるくる」入れ替わりながら、一緒にその場所をつくることで、コミュニティとつながる有意義さを、場所を訪れる中で感じてもらう仕組みの開発に取り組んだ。  
([https://note.com/pm\\_himeji/n/nc58366bb80e2](https://note.com/pm_himeji/n/nc58366bb80e2))。

2024年12月14日に、児童養護施設の子供たちを美術館に招待する予備実験を実施した。この試みは当初、孤立・孤独予防の新しい社会ネットワークの構築を目指し、「こどもたちのために何か貢献したい」と願う施設や団体、組織の連携する意図で始まったが、児童養護施設のニーズを聞き取る中で、「美術館は敷居が高い」と感じており、美術館という場所に対する意味づけを見直す必要性があった。そこで、支援者と被支援者の主客の関係を緩和するコンセプトとして「対話型鑑賞(かんしょう)」の社会実装を試みた。これにより、場所を介して、その文化を愛するコミュニティとのつながりを感じられるPMの開発に取り組んだ ([https://note.com/pm\\_himeji/n/nc2827149f7c0](https://note.com/pm_himeji/n/nc2827149f7c0))。

2025年3月20日に、山野井公園木かげまつりを実施した。この試みは小公園を活かしたPMのモデル開発の試みである。来場者に、お客様として参加してもらうだけでなく、こどももおとなも、自らイベントに関わりたくなるようなPMを目指し、「猫の手」企画を導入。各ブースのお手伝いさんを募集し、缶バッジ作りや餅入り味噌汁、コーヒー、ハーブティーのいずれかをお礼として進呈する仕掛けを実装した。この取り組みを通じて、新たな小公園での取り組みの担い手となる「木かげ友の会」へのLINE登録を呼びかけた結果、現在34名の参加を得た。

以上の予備実験の結果を2025年度にさらに分析して、被援助志向性の低い性格傾向に配慮し、場所を介してコミュニティとのつながりを実感でき、またその場所に訪れたいくなるよう、PMの改善点を明らかにし、マイルストーン④「近隣社会環境の多様性を活かした戦略的PMの社会実装」につなげる。

(4) プロジェクトのResearch・Questionについて明らかになったこと

Q1. PMは、孤立・孤独予防として、どのような性格傾向の人に有効か？

公共空間のどの場所においてPMをすべきかについては、本年度の予防モデルの開発の成果(図4)から以下の傾向が確認できた。

非孤立・非孤独型については、外向性・協調性が高く、神経質傾向が低く、被援助志向性が高い人が多い性格傾向がある。そのため、このタイプの利用頻度認知が高い傾向にある公園や学校でのPMが、孤立・孤独の1次予防に有効であろう。

孤立・非孤独型については、外向性・協調性・神経質傾向・被援助志向性が低いという性格傾向がある。このタイプの利用頻度認知が高い傾向にある公共空間がないため、孤立の2次予防モデルとしては現時点ではPMに有効な場所はない。そのため、被援助志向性の低さに配慮したPMを行うことで性格傾向に配慮した社会包摂を探索していく必要がある。

非孤立・孤独型については、外向性・協調性・被援助志向性は低い傾向にあり、神経質傾向・開放性が高いという性格傾向がある。このタイプの利用頻度認知が高い場所である、駅前広場・運動施設・学校施設・交流広場などでの、孤独の2次予防の取り組みが有効であろう。

孤立・孤独型については、外向性・協調性・被援助志向性は低い傾向にあり、神経質傾向が高いという性格傾向がある。このタイプの利用頻度認知が高い場所である交流広場での孤立・孤独3次予防の取り組みが有効であろう。

表2 2024年度版PMを通じた重層的孤立・孤独予防モデル

	ゼロ次予防モデル	1次予防モデル	2次予防モデル	3次予防モデル
概要	発症やリスクファクターにつながる社会的・経済的・文化的な環境要因に着目し、それらの要因を意識させることなく改善することで、個人や集団の孤立・孤独を減らす介入。 →環境要因の改善を通じて、孤立・孤独を未然に防ぐことが主眼。	孤立・孤独が発生する前に、個人や集団を対象に、居場所やつながりを意識的に提供・強化する介入。 →居場所づくりやつながりの強化を直接的に行うことが主眼。	すでに孤立・孤独が生じている個人や集団に対し、その進行や悪化を防ぐための早期発見・早期支援を行う介入。 →問題が生じ始めた段階での介入(例:早期相談、支援ネットワークの形成)。	すでに孤立・孤独が長期化し、複雑化している個人や集団に対し、機能の低下や併症を最小限に抑え、生活の質を向上させる介入。 →問題が長期化・深刻化した段階での支援(例:専門的ケア、リハビリテーション、社会復帰支援)。
孤立・孤独状態	孤立感の増減 孤独感の増減 (環境認知の悪化)	非孤立・非孤独型 (居場所の喪失)	孤立・非孤独型 非孤立・孤独型 (閉じこもり)	孤立・孤独型 (引きこもり)
主なリスクファクター	心理的安全性 歩きたくない 立ち寄りの敬遠 場所の認知不足	居住継続意向 複合的性格特性 話し相手に乏しい。 ワーク・ライフバランスの悪化。	被援助志向性 転入、離別、失業、慢性疾患、可処分所得の低下、育児・介護による行動範囲の縮小	外出障害・選択肢制限 疾患影響(精神疾患、運動障害、入院・長期療養、長期失業)、近隣における行動選択肢の喪失(店舗・施設の閉店など)
処方の一例	歩きやすいまちづくり ひとりでも立ち寄れる 心理的安全性の確保 (公園づくりなど)	居心地のよい居場所 なじみの店づくり (community-shed, Chatter and Natter, After Schoolなど)	誘い出し支援 お得な情報のリーチ、 有意義な活動への勧誘 (Be-freending, Walking-soccer 等)	移動型支援 空き地活用 (移動販売車、移動博物館、移動図書館など)

Q2.近隣社会環境の多様性を活かし、どこでPMを行うべきか？

1次予防の観点からは、現時点では、これまでの仮説通り、最も多くある公共空間で、他の公共空間に比して、利用頻度が高いと認知されている小公園(街区公園)で行うことが妥当であると考えている。その際に小公園周辺の近隣社会環境の多様性に配慮した取り組みが望ましいと考えている。この点については2025年のマイルストーン③の成

果を踏まえて更に検証したい。また、年代によっては異なる公共空間利用傾向にある可能性や、被援助志向性が低い配慮すべき性格傾向にある人たちがどこに立ち寄る傾向にあるのかは明らかになっていないので、この点について更に分析をし、検証を進めたい。

**Q3.孤立・孤独予防格差解消のために、どのような空間的・社会的・情動的選好に合理的に配慮すべきか？**

マイルストーン②である予防モデルの開発の段階においては、これまでの研究成果を参考に、26の説明変数を採用して4つの説明変数群に分類、さらに個人レベルでの介入か、集団レベルでの介入が可能かで、臨床的か空間的かで2つの説明変数大群に大別、その上で変数条件が異なる2項ロジット回帰モデルを比較し、個人変数と目的変数との因果関係の分析を進めた。その結果、孤独は臨床的変数群のAUC (Area Under the Curve) が高く、孤立は空間的変数群のAUCが高いことが示された。孤立の予防格差解消にはエリアでの空間利用認知に合理的に配慮した空間的処方が有効であり、孤独の予防格差解消には、被援助志向性などの個人の性格傾向に合理的に配慮した社会的処方が有効であることが示唆された。しかしながら、マイルストーン③での「施設立地の影響」と「立ち寄り行動の実態」などを含めた多様な近隣社会環境の可視化を踏まえて、さらに吟味する必要がある。

**Q4.場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMは、どのような社会的ネットワークを構築して、だれと実施すべきか？**

研究計画においては、公共空間等の誰でも立ち寄れる場所での戦略的PMの社会実装をはかるために、公共空間の管理主体である行政との連携を図ってきた。公共空間以外の利用行動認知では、近所の居酒屋やカフェなどの半公共空間の利用が、ソロ活動（誰かと交流したいときにひとりでも立ち寄れる場所）も含めた立ち寄りの場の自由度を確保していることが明らかになった。そのため、より戦略的なPMを実現するためには商業者と連携した孤立・孤独予防のネットワークの構築をはかり、町中の飲食店との連携をはかる必要があると考える。

**表3 交流することができる立ち寄り場所の自由記述分析の結果**

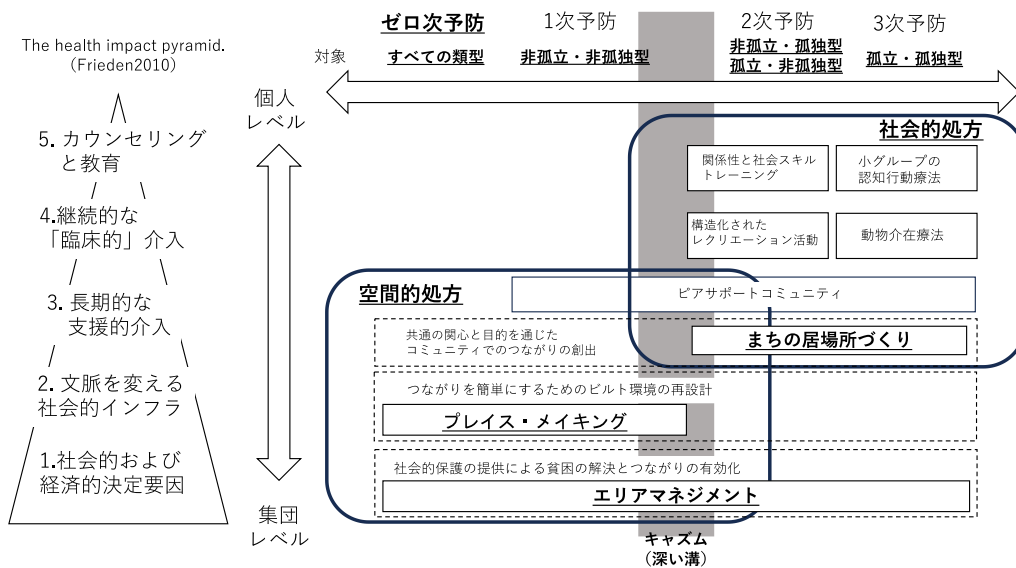
順位	ひとりで立ち寄る場所（自由記述）		だれかと立ち寄る場所（自由記述）					
	非孤立・非孤独型	出現回数	その他孤立系	出現回数	非孤立・非孤独型	出現回数	その他孤立系	出現回数
1	カフェ・喫茶店	183	カフェ・喫茶店	13	カフェ・喫茶店	183	カフェ・喫茶店	20
2	友人・友達の家	158	居酒屋・飲み屋	12	居酒屋・飲み屋	99	居酒屋・飲み屋	11
3	居酒屋・飲み屋	83	公園	8	公民館	82	集会所・地域センター	8
4	公園	77	図書館	5	公園	81	飲食店	6
5	図書館	70	ジム	5	集会所・地域センター	72	公園	5
6	公民館	53	児童館	3	友達・友人の家	61	児童館	4
7	ジム	46	マンションロビー	3	飲食店	43	コンビニ	4
8	実家	38	飲食店	3	図書館	41	図書館	2

注) ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) により分析した結果である。  
 注) 出現回数が多い名詞上位を抜粋し、グルーピングしなおし、再集計した。グルーピングした場所は名詞の間に「・」がついている。  
 注) その他は、孤立・孤独型、孤立・非孤独型である。非孤立・孤独型は有意差がなかったため分析から除外している。  
 注) なお、非孤立・非孤独型はN=5,370、孤立・孤独型、孤立・非孤独型を合わせるとN=2,558となる。  
 注) 飲み中心か、食べる中心かでニュアンスの違いがあるため、居酒屋・飲み屋と飲食店をグルーピングしなかった。なお、居酒屋・飲み屋にバーは含めた。  
 注) 公民館は社会教育のための施設、集会所・地域センターは多目的用途と違いがあるため、集会所・地域センターと公民館をグルーピングしなかった。

出典：内平隆之、中嶋一憲、安枝英俊、伊藤克広「孤立・孤独予防に資する空間的処方あり方:全国エリア別人口按分1万人WEBアンケートによる立ち寄り行動の認知に着目した孤立・孤独1次予防モデル開発」日本建築学会計画系論文集 90(830) 737-748, 2025年4月, <https://doi.org/10.3130/aija.90.737>

Q5.まちの中に、誰もが気軽に訪れることができ、他者とつながれる「場所」をつくるPMを通じて、誰もが健康に過ごせるまちの仕組みは、どのように実現できるか？

二層の居場所でも問題提起されたが、これまでの居場所づくりでは、特定のハイリスク者の共通の関心にに基づき、仲間同士でつながる事を目的とした取組が実績を上げてきた。しかしながら、特定の人たちのまちの居場所ができてしまうと、その人たち以外の人たちが新たに関わりにくくなり、その結果、担い手側も固定化してしまうなど、まちの居場所が孤立してしまう問題が生まれている。そのため、プレイス・メイキングを通じて、開かれた場所を生み出し、1次予防と2次予防のキャズム（深い溝）を埋め、エリアマネジメントを通じて多様な社会ネットワーク間の移動の自由度を高めていくことにより、誰もが健康で過ごせるまちの仕組みが実現できるのではなかろうか。



Frieden TR. A framework for public health action: the health impact pyramid. Am J Public Health 2010.の図1および Crowe, C. L., Liu, L., Bagnarol, N., & Fried, L. P. (2022). Loneliness prevention and the role of the Public Health system, Perspectives in public healthの図1に基づき内平が空間的処方に関連した概念を追記し(太字・下線部), 加筆修正した。翻訳はDeepL

図10 孤立・孤独予防に資する空間的処方の位置づけ

(5) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

本研究では、誰もが立ち寄りやすいプレイス（場所）を生み出すことで、場所づくりからコミュニティへ、つながりを感じることを間接的に助けることができないか、このプロジェクトではこのコンセプトを科学的に検証することを目指している。

本年度の成果として、孤立・孤独のハイリスク者といえる人々は自分からは人と繋がろうとしない、むしろ社会とつながること、誰かに助けてもらうことを苦手とする傾向があるということが示された。この被援助志向性が低い性格傾向に配慮したPMの方法は予備実験とその結果について未検証であり、次年度に向けた課題としたい。

## 2-5. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2024年4月8日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	2024年度の計画と意見交換
2024年4月10日	美術館起点の取 り組み検討会	姫路市立美術館	2024年度の実装実験の意見交 換
2024年4月18日	小公園起点の取 り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	2024年度の実装実験の意見交 換
2024年4月19日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年4月25日	小公園起点の取 り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の意見交換
2024年5月10日	戦略的PM定例研 究会	リモート	今年度の研究の進め方および 前年成果の確認
2024年5月24日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年6月3日	小公園起点の取 り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の定例検討会
2024年6月6日	戦略的PM全体研 究会	リモート	進捗報告と意見交換
2024年6月7日	姫路商工会議所 との連携会議	姫路商工会議所	昨年度の試行成果に基づく、人 材育成講座の実装検討会議
2024年6月27日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年7月4日	小公園起点の取 り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の定例検討会
2024年7月18日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年7月23日	戦略的PM定例研 究会	リモート	進捗報告と意見交換
2024年8月6日	姫路商工会議所 との連携会議	姫路商工会議所	人材育成講座の実装検討会議
2024年8月8日	小公園起点の取 り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の定例検討会
2024年8月9日	つながり思考連 続講座の相談	リモート	事前確認会議
2024年8月16日	SDC連絡準備会 コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年8月19日	つながり思考連 続講座	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度第1回 目の実装実験
2024年8月20日	美術館起点の取 り組み検討会	姫路市立美術館	児童養護施設の意向を踏まえ た実施内容の検討
2024年8月19日	つながり思考連 続講座	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度第2回 目の実装実験

2024年9月4日	戦略的PM定例研究会	リモート	進捗報告と意見交換
2024年9月9日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の定例検討会
2024年9月18日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2024年9月19日	つながり思考連続講座	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度第3回目の実装実験
2024年9月23日	ヒメジくるくる市	姫路セントラルビルジング	青空市の改良実験
2024年9月26日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年10月7日	姫路商工会議所との連携会議	姫路商工会議所	人材育成講座のフォローアップセミナーの開催の検討
2024年10月18日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年10月24日	戦略的PM定例研究会	リモート	進捗報告と意見交換
2024年10月28日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2024年11月11日	フォローアップセミナー	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度フォローアップセミナー第一回
2024年11月18日	フォローアップセミナー	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度フォローアップセミナー第二回
2024年12月3日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2024年12月3日	戦略的PM定例研究会	リモート	進捗報告と意見交換
2024年12月12日	美術館起点の取り組み検討会	姫路市立美術館	実装実験の実施前会議
2024年12月14日	美術館起点の社会実験	姫路市立美術館	児童養護施設を招待した実装実験
2024年12月17日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2024年12月20日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2024年12月27日	美術館起点の社会実験の検証	姫路市立美術館	児童養護施設を招待した実装実験の成果と課題の確認
2025年1月16日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2025年1月17日	戦略的PM定例研究会	リモート	進捗報告と意見交換
2025年1月23日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2025年1月27日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議

2025年1月30日	フォローアップセミナー	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度フォローアップセミナー第三回
2025年2月12日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2025年2月21日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2025年2月26日	戦略的PM定例研究会	リモート	進捗報告と意見交換
2025年3月4日	フォローアップセミナー	姫路商工会議所	人材育成講座の2024年度フォローアップセミナー第4回
2025年3月10日	小公園起点の取り組み検討会	兵庫県立大学 RREP推進室	実装実験の検討会議
2025年3月20日	木かげまつり	山野井公園	新たな社会ネットワークづくりの実装実験(木かげ友の会)
2025年3月21日	SDC連絡準備会コア会議	ホテル日航姫路 友好クラブ	定例会議
2025年3月26日	SDC共創グループGIS研究会	リモート	近隣社会環境の可視化に向けた検討

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- ・ SDCの機能開発としての人材育成講座については、姫路商工会議所まちづくり委員会等と連携して、3回の連続講座と、4回のフォローアップセミナーを開催した。2025年度も5回の連続講座をプロトタイプ講座として実施予定である。
- ・ この予備実験版の講座を受講した受講生から、他市町村での実施の依頼があり、2025年度での展開を調整中である。
- ・ 戦略的PMの予備実験として、2024年9月23日に「ヒメジくるくる市」、2024年12月14日に児童養護施設の児童を美術館に招待する取り組み、2025年3月20日に小公園起点での取り組み「木かげまつり」を試行した。2025年度も、小公園である山野井公園起点、美術館起点の取り組みを展開予定である。

## 4. 研究開発実施体制

### (1) SDC共創グループ

①内平隆之（兵庫県立大学，教授）

②実施項目

PoCの統括，SDCの設立，孤立・孤独予防ゼロ次・1次予防モデルの開発，近隣社会環境の多様性の可視化，社会実装実験の実施と検証。

本グループがPoCの統括を担い，各グループに社会実装に向けた課題を提供し，知見を統合したプロトタイプづくりを担当。エリアマネジメント組織と協力して，ワークショップや社会実装実験と検証，フォーラムや人材育成講座を担う。孤立・孤独傾向にある人の立ち寄りやすさの仮説の検証と限界を明らかにするとともに，近隣社会環境の多様性に基づく戦略的PMを支える伴走支援のあり方を研究開発する。

### (2) 空間的選好研究グループ

①安枝英俊（兵庫県立大学，教授）

②実施項目

空間的選好に応じた指標開発，居場所づくりのPM研究，散策支援モデルの提案  
外出行動と居場所の関係，緑やスポーツを活かした社会包摂活動のあり方を研究し，  
PoCの社会実装の課題に対して提案を行う役割を担うため必要である。特にポピュラー  
ションアプローチを通じて，誰もが立ち寄りやすい場所づくりの機序を解明する。

### (3) 社会的選好研究グループ

①和田真理子（兵庫県立大学，准教授）

②実施項目

社会的選好に応じた指標開発，商業者と連携したPM研究，移動式支援モデルの提案  
経済行動と居場所の関係，防災活動・共同売店を活かした社会包摂活動のあり方を研  
究し，PoCの社会実装に向けた課題に対して提案を行う役割を担うため必要である。  
特にハイリスク者の利害関係者（保健師，商業者，家族など）との連携による誘いや  
すい場所づくりの機序を解明する。

### (4) 情動的選好研究グループ

①中桐齊之（兵庫県立大学，准教授）

②実施項目

情動的選好に応じた指標開発，商業者と連携したPM研究，情報支援モデルの提案  
PoCの社会実装に向けた課題に対して，散策行動の情報支援のあり方，商業地域・ア  
ートディレクションによる散策支援を研究し，提案を行う役割を担うため必要であ  
る。特にメディアおよびコンテンツと社会参画の関係性について解明する。

## 5. 研究開発実施者

### SDC共創グループ (リーダー氏名：内平 隆之)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
内平 隆之	ウチヒラ タカユキ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
中畷 一憲	ナカジマ カズノリ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
田中 貴宏	タナカ タカヒロ	広島大学	先進理工系科学研究科	教授
井関 崇博	イゼキ タカヒロ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
中塚 雅也	ナカツカ マサヤ	神戸大学大学院	農学研究科	教授
浦川 豪	ウラカワ ゴウ	兵庫県立大学	大学院減災復興政策研究科	教授

### 空間的選好研究グループ (リーダー氏名：安枝 英俊)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
安枝 英俊	ヤスエダ ヒデトシ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
伊藤 克広	イトウ カツヒロ	兵庫県立大学	国際商経学部	教授
尾分 達也	オワケ タツヤ	北海道大学	大学院農学研究科	助教
岸本 慧大	キシモト ケイダイ	兵庫県立大学	環境人間学部RREP推進室	特任助教

### 社会的選好研究グループ (リーダー氏名：和田真理子)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
和田真理子	ワダ マリコ	兵庫県立大学	国際商経学部	准教授
牛尾 裕子	ウシオ ユウコ	山口大学	大学院医学系研究科	教授
前田 千春	マエダ チハル	鹿児島短期大学	商経学科	准教授
網木 政江	アミキ マサエ	山口大学	地域レジリエンス研究センター	学術研究員
大田伊久雄	オオタ イクオ	琉球大学	農学部	教授

情報的選好研究グループ（リーダー氏名：中桐 齊之）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
中桐 齊之	ナカギリ ナリユキ	兵庫県立大学	環境人間学部	准教授
山本明弥香	ヤマモト アヤカ	兵庫県立大学	環境人間学部RREP推進室	特任助教
佐々木 樹	ササキ ミキ	兵庫県立大学	環境人間学部RREP推進室	特任助教

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2025年3月4日	つながり思考セミナー成果発表交流会	兵庫県立大学RREP推進室, 姫路商工会議所都市まちづくり委員会	姫路商工会議所	37名	SDC共創グループが主催した人材育成講座の成果発表交流会。2024年度の受講生の成果発表に加えて、受講生代表数名が、今後の取り組みの展望を発表した。
2025年3月8日	孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング公開研究会	山口大学地域看護学講座, アラカルトカフェ	山口大学医学部保健学科	15名	社会的選好研究グループが主催の公開研究会。二層の居場所づくりの研究成果を発表。一般公募で集まった主に保健・看護や地域づくりに従事される方々にむけて意見交換を実施。

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・note記事サイト「人間のためのプレイス・メイキングー誰もが健康に過ごせるまちの仕組みに関する実践的研究」の運営, [https://note.com/pm\\_himeji](https://note.com/pm_himeji)

(3) 学会(6-4.参照)以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・内平隆之「人生100年時代の地域づくり」, (公財)兵庫県生きがい創造協会 兵庫県いなみ野学園大学院講座, 2024年9月27日

### 6-3. 論文発表

(1) 査読付き(2件)

●国内誌(2件)

- ・和田 真理子「高齢化したニュータウンにおける「二層の居場所」づくりに地域密着型NPOが果たす役割 西神ニュータウンのコミュニティかりばの事例」, 日本都市学会年報, VOL.57, pp.215-222, 2024
- ・中桐斉之, 山口萌香, 飯塚爽一郎, 内平隆之「360度パノラマVR映像が立ち寄り意欲へ与える影響: 閲覧方法による比較」, 兵庫県立大学環境人間学部研究報告(27号) pp.87-95 2025年3月

●国際誌(0件)

(2) 査読なし(1件)

- ・山口萌香・中塚爽一郎・中桐斉之・内平隆之「パノラマVRの撮影コンテンツの違いがユーザの立ち寄り意欲へ与える影響」, 情報処理学会研究報告, Vol.2024-HCI-210, No.26, 1-2 (WEB ONLY), 2024年11月

### 6-4. 口頭発表(国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演(国内会議 0件、国際会議 0件)

(2) 口頭発表(国内会議 3件、国際会議 0件)

- ・和田真理子「ニュータウンにおける地域課題解決型NPOの発展プロセス」, 日本都市学会第71回大会, 石巻魚市場, 2024年10月26日
- ・井関崇博「まちの広報における写真展示イベントの可能性」, 日本広報学会第30回研究発表全国大会, 南山大学, 2024年11月10日
- ・前田千春・大田伊久雄「沖縄県やんばる地域における共同売店の現状と課題」, 林業経済学会2024年秋季大会, 九州大学, 2024年11月24日

(3) ポスター発表(国内会議 1件、国際会議 0件)

- ・藤近愛・安枝英俊「姫路市中部第一地区における街区公園の空間特性に関する研究」, 2024年度日本造園学会関西支部大会, サンポートホール高松, 2024年10月20日

### 6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿(0件)

(2) 受賞 ( 0 件)

(3) その他 ( 1 件)

- ・内閣府の「孤独・孤立に資する官民・民民連携による特色ある取組の推進」事例の取材記事「次世代の小規模公園のあり方と管理方法に関する研究～地域住民の孤立孤独予防に資する公園～」として紹介。

<https://www.notalone-cao.go.jp/platform/promotion/>

#### 6-6. 知財出願

(1) 国内出願 ( 0 件)

(2) 海外出願 ( 0 件)